

部内教会合祀祭文

これの○○分教会の祖霊社に只今厳かにお鎮まり下さいました初代会長△△△△刀自之霊の御前に天理教 分教会長

慎んで申し上げます

あわれ汝刀自は去る 月 日長命ながら齡九十五歳というをこの世の限りとしてゆくりなくも出直されたことは 思えばやはり淋しい口惜しい限りでございませう

さはあれ人間というは身の内神のかしものかりものなれば生きるも出直すも親神様の妙なる御支配であり むしろなってくる一切は大難を小難にお見せ頂き 更には後に続く一同の成人を望まれる上からの親心 深く温かい思召しの現れとお教え頂き 尚ふしから芽が出るとも仰せ頂いておりますから 徒に歎き悲しむというよりも 本当は御礼申し上げますべきものと 一同これからの前進のため 古き道ありて新しき道 〃とお指図下されたお言葉を思い起こし 殊に終戦直後の苦難の中からいち早く修養科に学ばれ その後間もない昭和〇〇年以来凡そ四十年の長きに亘り 雨の日も風の日も吹雪舞う中も上級への日参を続けられ 而もその間 生涯の救け一条を誓い 陽気づくめの完成を夢見て昭和〇〇年〇月二十六日教会を設立されるまでに至った尊いあの日この日を偲び併せて現世にありし頃の笑顔脳裏に浮かべつゝ 届かぬ私達一同を 時に強く 時に優しくお導き下された御功績に厚く厚く感謝申し上げたいと存じます

これより〇〇家の墓地に埋葬するに先立ち 家族親族 親しき人々と共に心を籠めて合祀祭をつとめさせて頂いた真実を充分にお受け取り下さいまして 末代かけてのたすけ一条の道を一手一つに勇んで辿れますよう かくて当教会につながる道の子供達の先々に陽気ぐらしの実が見え その周辺により広くより大きく神名の流れて参りますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます